

## 会議録（要旨）

会議名称	第3回 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会
日時	2023年11月20日（月）13:30～15:40
会場	豊岡市役所 2階 大会議室
出席者	〔委員長〕 山下委員長 〔副委員長〕 土出副委員長 〔委員〕 大倉委員、衣川委員、木村委員 〔アドバイザー〕 藤野氏 〔事務局〕 観光文化部長 米田、文化・スポーツ振興課参事 大岸、 課長補佐 中村、係長 齋賀 市民会館長 田中、係長 森田、 新文化会館整備推進室長 櫻田、室長補佐 田中 (株)シアターワークショップ 伊東、佐藤、長谷川
欠席者	〔委員〕 井原委員、岸本委員、結城委員
傍聴者	3名
議題等	1 開会 2 協議・報告事項 (1) 第2回委員会のまとめ ① 主な意見 ② (補足) 指定管理者制度の導入状況 (2) 自主事業方針案について ① これまでの自主事業実施状況 ② 市民ワークショップ意見一覧 ③ 自主事業方針案 (3) プレイベント・開館記念事業方針案について ① 市民ワークショップ意見一覧 ② プレイベント・開館記念事業方針案 3 その他 (1) 市民ワークショップ 日程 (2) 第4回検討委員会 日程 4 閉会
会議資料	・ 第3回豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会次第 ・ 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会(第3回)資料 ・ 第2回検討委員会会議録(要旨) ・ 市民ワークショップ結果報告書(10月発行かわら版)
次回会議	2024年1月16日(火) 豊岡市役所本庁2階 大会議室

〈審議結果は次のとおり〉

### 1 開会（あいさつ）〔山下委員長〕

前回、非常に暑い中ご意見を伺い、それから3か月ほど経った。前回は運営主体について、直営とするか指定管理者制度を採るかという議論があったが、基本的には市民に密着した直営方式が良いだろうという話になった。その中で、より詳細な事例やメリット・デメリットを知りたいというご意見があったので、今回はまとめた資料をもとに議論したい。

併せて、開館後にどのような事業を行っていくかという点についても意見を頂戴したい。

### 2 協議・報告事項

#### (1) 第2回委員会のまとめ

- ① 主な意見（事務局説明）
- ②（補足）指定管理者制度の導入状況（事務局説明）

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
アトバ伊 委員長	指定管理者制度において、非公募か、公募かというのも重要なポイントである。びわ湖ホールが公募になったことは衝撃であった。神戸文化ホールという中核施設ですら公募となっていたが、非公募に戻した。ひとことで言えば、この20年で公共ホールの運営を担う人材が育っていない。40代前後の専門人材が枯渇しているという由々しき事態である。全国公立文化施設協会（以下、公文協という。）の調査報告書によってデータとして確認できるが、公立文化施設の職員の過半数が50歳以上であり、非正規雇用が全国平均より20%ほども多い。経年変化で分析すると、10年前と現在で、年齢がそのままスライドして上がっただけの状態。専門人材を確保できていない施設が2/3以上となっている。資金不足が原因だが、資金不足と指定管理者制度は連動している。公募による指定管理料の引き下げと5年程度の期間ごとの契約が原因となっている。指定管理者制度の問題点、課題を踏まえたうえで検討する必要がある。当面、直営とするという方針は間違っていないと考えている。公文協から国や自治体への提言がなされた。どのような指定管理者を選ぶか、ということと自治体の文化政策がどうあるべきか、ということは繋がっている。単に二択のうちどちらが良いかというのみでなく、広い視野で考える必要がある。市民がプロセスから参加する仕組みが作れないか、ということ等も頭に入れながら事業展開についての議論をしたい。

#### (2) 自主事業方針案について

- ① これまでの自主事業実施状況（事務局説明）
- ② 市民ワークショップ意見一覧（事務局説明）
- ③ 自主事業方針案（事務局説明）

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員	公共ホールの自主事業には、交通の便が悪かった時代に、京阪神に出でいなくても良いものが鑑賞できるように、ということが一つの役割としてあったと思われる。豊岡市民会館は、予算の部分からも現在は音楽に重きを置いて、特に吹奏楽に力を入れているように思う。それもひとつ筋の通ったものにしてという発想があり良いことであると思う。ただ、様々な好みを持つ方々がいるため、予算のことを考えずに言えば、様々なジャンルの事業ができれば良い。もう一点、リーススペースの有効活用というのが新文化会館の目玉のひとつだと思うが、様々な団体がリーススペースをどのように使うの

	<p>か、イメージが沸かないという懸念がある。eスポーツのイベント等でもホールを使って実施することができるのではないかと。豊岡市出身で、世界的に活躍されているプレイヤーもいるということなので、既存の「文化」に囚われずに検討したい。文化を通じた居場所づくり、何かひとつのものを作ったというような体験を、教育や福祉等の専門部署と連携して、提供できるようにしていただきたい。また、地域の文化団体が行う発表等は、自主事業として取り込んで一緒に開催することはできないか。音楽祭や演劇祭によって、市が先にホールを押さえてしまうことがあり、文化協会にクレームが来ることがある。文化協会と共催という形にすることで解決になるのでは。練習場所を提供すれば、稼働率の向上にも繋がる。予算の課題はあるだろうが、削りようがない部分は確保していただきたい。</p>
委員長	貸館と自主事業の線引きは難しい部分である。
委員	直営のメリットはわかるが、担当職員が異動しても問題なく引き継がれるようにする方策が必要だろう。既存の活動も考慮しながら、新たな活動をしていけたら良いのではないかと。また、類似規模の近隣施設と同じような活動をするのではなく、うまく連携をしていけると良いだろう。
委員長	自主事業を誰がどのようにして企画していくのか、市民がどう参加できるのか。文化協会の事業を共催のような形にすることが可能なか等も含めて、市民会館の現状をベースにしつつ、これまで以上に使い勝手が良いようにどう変えていくことができるか、検討していきたい。
委員	地元を出てホール関係の仕事の知識を身に付け、技術を持った方が地元で働ける環境を作ることができれば、強みになるのではないかと。勉強してきたことを仕事として活かせる施設がすぐそこにあるということが望ましい。
委員長	事業と運営体制は予算の面で密接に関わってくるので、実際の管理運営計画をまとめていくにあたって具体的に議論していくことになるだろう。専門人材の活用には様々なパターンが考えられる。常駐には人件費がかかるため、委託やアドバイザーのような形式というパターンも考えられる。
副委員長	色々な人が色々な時間帯に集って、活発に利用されるのが理想だが、そのためのアクセスの課題や、時間帯によって世代が分かれるようなことが考えられる。大ホールでの鑑賞事業ばかりではなく、ホワイエ等も使用した小さな事業も組み込んで、例えば美術や音楽、スポーツのワークショップ等を行っていくことで活発になるのではないかと。多世代に来てもらうにあたって、キッズスペースや勉強スペース、練習場所、小さなイベントができる場所などが求められるだろう。それらを時間帯に合わせて調整可能にすることも考えられるのではないかと。
委員長	ギャラリー等も活用しながら、大きなホールでの大きなイベントに限らない催しが散りばめられ、年間を通じて賑わっていくことや、様々な属性の方がそれぞれの楽しみのために集まっていくというのは大事な視点だろう。
委員	市街地近辺の方のみではなく、市全体の方が足を運びやすいものとなるにはどうしたら良いかという点についても考えたい。
委員長	市全域の文化政策全体を誰がどうコーディネートするかという点は、非常に重要である。各地域の施設をサテライト的に使用していくということも考えられるが、どのように盛り上げていくかというのは難しい部分でもある。
委員	図書館などでも同様に、集うこと、交流することを目指している。そうした他施設との棲み分けも含めて考えていく必要がある。
委員長	仕掛けづくりと調整について、例えば文化政策全体の総合プロデューサーのような人材がいれば、地域資源を効果的に活用できるだろう。
委員	市の中心にあるものとして、市民全員の持ち物として認識してもらう必要があるだろう。来てもらうきっかけを作ることが重要である。建物の中に納まらずに、外側に積極的にアプローチしていく必要がある。

アドバイザー	<p>専門職大学とは、より有機的に連携できる余地がある。この10年での豊岡市のブランディングは、近隣から羨望のまなざしで見られるほどになっている。外と内の温度差があると感じているが、ブランディングを活かさない手はない。ずっと住まれていた方々にとって使い勝手の良い施設になってほしいという思いはとても大切なことである。とはいえ、戦略的に新しいホールを活用するための視野の広さも必要。人口減少が進む中、現実的な問題がある。外からの視点では、豊岡は輝いて見えるが、見え方と住まれている方々の感じる実態にずれが生じている。その中でこの新しいホールに先行投資するわけなので、どこにでもあるホールを乗り越える新しいヴィジョンが必要になる。そういった意味では、稼げる場所では稼げるホールになると良い。大阪でも京都でも観られないものがあるから豊岡へ行こう、と思わせる仕掛けが必要。例えば豊中市では、民間の指定管理者による優れた運営が行われており、レジデンスアーティストの育成や、アウトリーチに取り組んでいる。広域に対してアプローチするという意味ではいわきアリオスも有名で、優れた専門人材を抱え、アウトリーチ活動等を行っている。市内の交通の問題も深刻で、車がないと生活に支障をきたす現状に対してどのようにアプローチしていくのか。地域コーディネーターやリンクワーカーのような役割もこの施設が担えると良い。</p>
--------	--

(3) プレイベント・開館記念事業方針案について

- ① 市民ワークショップ意見一覧（事務局説明）
- ② プレイベント・開館記念事業方針案（事務局説明）

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員	<p>ワークショップの参加者が基本構想、基本計画段階より減少しており、市民が盛り上がらないといけないという危機感を持っているが、ワークショップのアイデアとしては具体的な内容も出ている。機運を醸成していくためには、新文化会館のネーミングを公募するようなことや、見学ツアー、体験会など、実際のもので見ってもらうような機会があると良いだろう。ボランティア組織を早めに立ち上げ、そういった方々から盛り上げていくような方法もあるのではないかと思う。ボランティア活動をすると地域通貨がもらえるという例もあるという。</p>
委員	<p>「他では鑑賞できないもの」をここで鑑賞できるようにしていくのであれば、最初が肝心かと思う。舞鶴では、地元出身者のアーティストインレジデンスで、市民参加型の事業を行っていた。合唱や吹奏楽ではたくさんの人が関わることができ、良い事例であった。練習して発表できる音楽イベント等を行っていったら面白いのではないか。</p>
委員長	<p>「こんな面白いことをやっているよ」という最初の打ち出しをどのようにやっていけるか。戦略的に考えていく必要がある。次回委員会にて事務局から本日のまとめを提示するので、それに対して改めてご意見を頂戴したい。また次回は貸館の方針についても、ワークショップの意見等を踏まえて検討していくことになる。運営組織については次々回の委員会にて、自主事業、貸館事業の方向性についての議論を踏まえて検討したい。</p>
事務局	<p>本日欠席している井原委員から事前に頂いた意見を書面で配布しているので、ご覧いただきたい。また、プレイベントや開館記念事業の規模感については、しっかりと実施していくのが望ましいという方向性で良いか。</p>
委員長	<p>市民のみなさんにどのように活用していただくか、そのきっかけ作り、スタートダッシュであるので、しっかりと行っていくのが望ましい。</p>
アドバイザー	<p>芸術文化観光専門職大学の文化祭には1,500人ほどの来場があった。イベントを実施すれば多くの方が訪れるだろう。</p>

3 その他

連絡事項の伝達（事務局説明）

4 閉 会（あいさつ）〔土出副委員長〕